

岩高時代を振り返って



高橋 一恵

(平6年 岩高卒)

平成六年三月に岩ヶ崎高校を卒業し、三十年が経ちました。もうそんなに経つのかと月日の経つ早さに感慨深さを感じます。

岩高時代を振り返ってみますと、勉強や部活に勤しんだのは勿論ですが、友人達と楽しく過ごした高校生活の日々が思い出されます。とりわけ仲の良かった中学時代からの友人達と同じ部活に入り、その部活は写真部でしたが、和気藹々と楽しく活動をしました。運動部の大会があれば同行し、その勇姿を写真に収めました。当時、写真部の部屋(女子会部屋?)があり、撮影してきた写真を暗室で現像液につけて現像しました。初めて現像する時は、上手く仕上げる事ができるか不安になりましたが、友人達と冗談を言い合いながら、持ち前の明るさとポジティブさで試行錯誤しながら楽しく仕上げたように思います。その



友人達とは久しく会っていませんが、皆元気に過ごされていると思います。私は高校卒業後、仙台の短大へ進学し、卒業後は地元に戻り働いております。短大時代は四年大への編入も考えましたが、その頃は、就職氷河期にあたり、家族や友人の勧めもあり就職する事になりました。現在に至るまで様々な事がありました。充実した生活を送っております。私の息子二人も岩高を卒業しました。親子で岩高の思い出を語ったりして

近況報告

います。当時よりだいぶ生徒数が減っている事には驚きを隠せませんが、少人数だからこそそのメリットを生かして岩高生の皆さんには、「尚志育英」の建学精神のもと、充実した高校生活を送ってほしいと思います。最後に同窓会の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



三浦 大樹

(平11年 岩高卒)

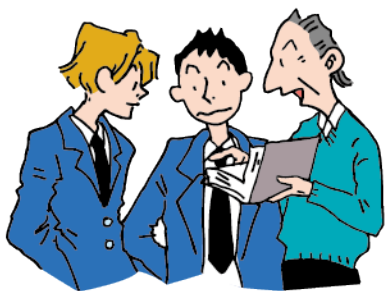
まずはこの場を借りて謝罪させていただきます。今から25年前、岩高同窓会報の記事を頼まれておきながら提出せず大変申し訳ございませんでした。当時、岩ヶ崎高校を卒業したての三浦大樹青年は、栗駒が田舎だという自覚がなく仙台に飛び立ったものでめぐるめく大学生活に翻弄されすっかり忘れておりました。記事の依頼は、岡田先生よりいただきました。岡田先生は25年前の私が卒業する年

が教員生活最後の年という事で、卒業式の日と同級生達とサプライズを仕掛けました。卒業式の終盤、担任の先生方が生徒の先導のために前に並び「卒業生退場」のアナウンスの瞬間、「ちょっと待ったー!」と高らかに手を挙げました。そのときうなだれた先生方の首の角度をいまだに忘れられません。『このまま何事もなく終わらせてくれ』という声が聞こえてくるかの様な角度でした。そのまま壇上に駆け上がり、「私たちの他にもう一人今年卒業する人がいます。岡田先生ステージにお上がりください。」と、岡田先生の卒業式を行いました。終わった後、さつきうなだ



れた先生方から「良かったよ」というお言葉をいただきました。後日、岡田先生よりお話がありました。「素晴らしい卒業式をありがとうございました。岩高同窓会報の記事を頼みたいんだ。」(そして1行目に続きます。)

岩高が大好きでした。岩高で過ごした日々が楽しくてしょうがなかった。そんな岩高への思いがきっかけで20数年住んだ仙台を離れ、地域おこし協力隊として栗原に戻ってきました。そして大変ラッキーな事に地域コーディネーターとして岩高に関わらせていただいております。これから六日町通り商店街にクラブフトビールの醸造所を造ります。どうぞお店にいらしてください。一緒に岩高の話をしましょう。



在校生 活動の様子

イイじゃんイワコウ!



生徒会長

千葉 理彩乃

岩ヶ崎高校は現在、地域の方々と連携して多くの事にチャレンジしています。

そのきっかけとなったのは、通称「パイセン」の名で親しまれている岩高OBの三浦大樹さんです。令和五年度から、地域コーディネーターとして私たちの学びの手助けをしてくれることになりました。総合的な探究の授業や学校行事など、様々な場面において私たち岩高生と、地域の方々を繋げてくださっています。例えば昨年度の岩高祭では、木の摩擦による火起こし挑戦やステージ発表に加え、eスポーツ大会などを地域の皆さんに開催していただき、

大いに盛り上がりました。このような取り組みを通して、私たちは地域について詳しく学び、楽しく活動ができています。

また、冒頭にある「イイじゃんイワコウ!」というキャッチフレーズも三浦さんが考案してくださり、今では岩高PRの様々な場面で利用しています。

私たち岩高生はこのように地域の皆さんと繋がる活動を通して、自分たちがこれまで育ってきた栗原という場所への興味を深めてきました。その興味関心を土台とし、自分たち



〈同窓会総会〉

令和5年8月6日、同窓会総会が行われました。総会終了後の懇親会では、本校卒業生で「栗原芸能塾」を立ち上げたタレント菅原美話さんのトークショーがありました。





がこれから更に高めていきたい分野への探究を進めています。私たちの学びが、いずれ地域を支え助ける力になれるように、これからも私たちを見守ってください皆さんと協力し合いたいと思います。

パイセンを始め、地域の方々と関わることで、岩ヶ崎高校は新たな一歩を踏み出しています。これからも岩高を更に発展できるように、日々努力していきたいと思っております。

卓球部の活動



卓球部

千田 菜

私たち卓球部は、三年生三名、二年生二名の計五名で日々の練習に励んでいます。練習をするときは卓球に集中し、真剣に向き合っています。休憩のときは何気ないことでも盛り上がり、みんなで楽しんでいきます。部活に行けば必ず笑顔になれるような温かい雰囲気です。

現在は、支部総体に向けて繰り返しパターン練習をしたり、練習相手を変えて様々なボールになれるように練習しています。

また、休日には登米総合産業高校と合同練習会を開催し、練習試合をすることもあります。私たちのメンバーにはおらず、普段はなかなか練習することができない戦型の人と一緒に練習できる貴重な機会です。

昨年度の支部新人大会では、チームとして学校対抗で優勝することを目標に練習を重ねていました。しかし、惜しくも二位という結果でした。



その後、新人大会での反省点や悔しさを力にし、総体などに向けて練習してきました。少しずつ着実に力をつけ、団体戦やシングルスでメンバー全員が表彰されるなど練習の成果が結果でも現れるようになりました。

支部総体では、昨年度の新人大会では果たせなかった学校対抗優勝、ダブルスやシングルスは全員で県大会に出場することを目標にプレーしてきました。

どんな結果であつても今回の総体が今のメンバーで戦える最後の大会になります。残された時間を大切に、目標を達成できるように努力しつつ、卓球を楽しみたいと思います。

科学部の活動



科学部

石原 礼野

私たち科学部は、三年生五人、二年生七人の計十二人で活動しています。現在は四つのグループに分かれており、六月に開催される総文祭や夏の全国大会に向けて日々研究に励んでいます。

昨年度は、生徒理科学研究発表会でホバークラフトについての研究が評価され、今年度の八月に全国大会に参加することが決まりました。また、科学部では、栗原市と結びついた研究も積極的に行っています。栗原市で栽培が盛んな椎茸の廃棄される菌床や、マスコトキヤラクターに採用されている「ねじりほんによ」に着目し研究しています。今年度からは、地域の酒蔵で廃棄に困っている酒粕を新たな資源にできないかと可能性を探っています。

研究以外でも、六日町商店街で行われる夜市や岩高祭でワークショップや実験ショーを開催しています。